
祖父（極道）、父（元極道）、婿（予定）←今ココ

シトラチネ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

祖父（極道）、父（元極道）、婿（予定） ↑ 今ココ

【Nコード】

N5491P

【作者名】

シトラチネ

【あらすじ】

「今月のお題は南極点到達の日になんで、『極』です」 12月14日、目にした1件のリツイート。そこから生まれたツイートノベル連作。140文字の遊び心をまとめられます。暇つぶしにどうぞ。ツイートノベル初挑戦なので期待しないでください……！！

（前書き）

「今月のお題は南極点到達の日にちなんで、『極』です」 12月14日、目にした1件のツイート。そこから生まれたツイートノベル連作。140文字の遊び心をまとめられます。暇つぶしにどうぞ。ツイートノベル初挑戦なので期待しないでくださー・・・・・・・・・・！！

- - - - -

「手前、縁もちまして妻に所望いたしますは。家ご息女」
青年は跪いて娘の名を告ぐ。

「手前いたって不調法、しがない駆け出しもんにございますが、どうかお取立ての程お願い申し上げますっ！」

「昔気質の見上げた度胸だ。小指出しなア・・・」

「親分落ち着いてええ！」

- - - - -

「お祖父さん」

師走の駅は人で溢れているのに、初めて会う孫は儂の手を選んだ。何故分かった？ 駆け落ちした娘が儂の写真を持って行ったはずもない。

「小指が父と同じです。母が赤い糸で引っ張りすぎちゃったんだ、と教わりました」

極道泣かすたアいい度胸だ。

- - - - -

彼女の祖父は極道だ。

式への出席をためらう老人の説得に彼女は成功した。

「泣いて喜んでくれた。すぐ分かったよ？ 昔、パパが剥がしまくってた指名手配犯ポスターの人だったから」

俺が式をためらいたい。手首を捕捉された。
「で、あたしに指名手配された気分はどう？」
極楽です。

- - - - -

「君が来ると聞いて包丁を研いだよ」
彼女宅初訪問の日、元極道の義父（今日から予定）は笑顔でフグをさばいてくれた。
「フグ調理師免許？ 持つてるよ。知識と実践は別だけどね。交際と結婚が別なのと似てるよね・・・」
「究極の選択ですね・・・」

- - - - -

娘が家に連れてきた男は、元極道がさばいたフグを悠然と平らげた。

「娘のためか」

「俺のためです。好きな子のために命を懸けたパパみたいな人なら結婚してあげる、と言われたので」

義理の息子（今決定）は人を動かす極意を知っているかもしれない。

- - - - -

彼女の祖父は極道だ。

「ソバ打ちが趣味なんて、フツーのお爺ちゃんでしょ？ 直々に打

つてくれるらしいから行かない？」

と彼女に誘われ一緒に出向いた。

彼女の祖父は腕をまくり、怪我だらけのコワモテ集団を仲裁していた。

「あ、手打ちつてそっち？」

彼女のそばだけで満足しとこう。

- - - - -

彼女の祖父は極道で、彼女の父は元舎弟だ。

「若い頃、極貧でも舎弟にお年玉を下さってね。ありがたくて使えなかったが」

義父（予定）はお年弾（現物支給）をゴトリとテーブルへ置いた。

「ありがたく使わせてもらえそうだ」

義理の息子（未遂）のタマを現物徴収？

- - - - -

彼女の祖父は極道で、彼女の父は元舎弟。

義父（予定）が義祖父（予定）からもらったお年弾（現物支給）を手に凄味のある笑みを浮かべている。

「だめだよパパ、彼のタマはあたしの手中にあるの」

お父さんの前で下ネタ言っているの？

「3つともね、くふふ」

彼女はたまに刺激的。

- - - - -

彼女の祖父は極道だ。

義母（予定）にクリスマスの思い出を聞いた。

「父は日頃からサンタの練習をしてたわ」

意外にもイベントにノリノリだったらしい。

「煙突なんてないから、換気ダクトで。服役中にもプレゼント置きに来たわねえ」

囚人服のサンタはパトカーで帰ったそうだ

- - - - -

彼女の父は元極道。

お笑い好きと聞きつけ、式の余興に芸人を呼ぼうと考えた。

「整いました！」

披露予定のネタを聞く。

「極道とかけまして、演歌歌手ときます」

その心は？

「こぶしで人を泣かせます！」

クビにした。

- - - - -

彼女の父は元極道。

お笑い好きと聞きつけ、式の余興に芸人を呼ぼうと考えた。

「整いました！」

披露予定のネタを聞く。

「極道とかけまして、頼りになる神様ときます」

おおいいね、喜ばれそう。その心は？

「お礼参りが有効です」
クビにした。

- - - - -

彼女の父は元極道。

お笑い好きと聞きつけ、式の余興に芸人を呼ぼうと考えた。
「整いました！」

披露予定のネタを聞く。

「極道とかけまして、婚活ときます」

彼女の独身の友人に受けるかもね。その心は？

「縁故^{エンゴ}がなくてシノギを削ります」

クビにした。

- - - - -

彼女の父は元極道。

お笑い好きと聞きつけ、式の余興に芸人を呼ぼうと考えた。
「整いました！」

披露予定のネタを聞く。

「極道とかけまして、小銭の無い店ときます。その心は」

「サツが来ると困ります？」

芸人は黙って帰っていった。

- - - - -

彼女の父は元極道。

極道から足を洗う時、キックボクシングの達人だった義父（予定）に義母（予定）は寸止めの過酷な修行を課したそうだ。

「当時の写真よ」

必死の形相で足を洗う男の脇には潰れたゴキブリが落ちていた

- - - - -

彼女の祖父は極道だ。彼女の父は元舎弟。親分の愛娘との結婚時、極道から足を洗ったそうだ。

でも家族で海水浴や温泉に行けないと彼女は寂しそうに笑う。極道をやめても彫り物は消えない。

俺は家族風呂のある温泉宿を奮発した。

「わーママも温泉入れるよ！」

えっ彫り物があるのって。

- - - - -

彼女の父は元極道。

家族での温泉経験がない彼女に、家族風呂付き宿を奮発した。

義父（予定）はご機嫌だ。

「予約を減らさないで。君はまだ家族じゃないからね……」

「パパ、その理論だと結婚後のあたしとは家族風呂入れないよ」

貸切風呂と言い直すまで家族会議は白熱した

（後書き）

お題の日が過ぎても一人ひそかに継続中。増えたらコツソリ追加します。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5491p/>

祖父（極道）、父（元極道）、婿（予定）←今ココ

2010年12月30日23時53分発行